

第36回 夏季交流セミナー 授業実践発表（第3分科会）

菅井麻衣先生の実践について

全国小学校国語教育研究会
顧問 片岡 有希
(第35回全国国語教育大会実行委員長)

0. 校内研究とは？

「～児童の育成」→児童の変容？

① 教師の指導力・授業力の向上

⇒結果として児童の変容（成長）
につながる研究を目指す



1. 校内研究で国語科に取り組む意義

(1) 課題に向き合う

○ そもそも国語の指導に自信がない。

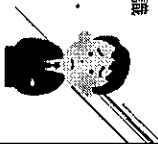
※ 「国語」に対する指導者の苦手意識

～特異な教科構造（資料1）

※ 物語や説明文の指導が特に・・・

○ 研究に取り組んでも手応えがない。

○ 校内研究の必要性を感じない。



1. 校内研究で国語科に取り組む意義

(2) メリット

① 全体の指導時数に占める割合が多い

② 複数人で教材研究・授業研究ができる

③ 系統的・段階的な指導

⇒理論を踏まえた一貫した指導観が
児童の「学力」につながる



2 国語科の校内研究を推進するためのポイント

(1) 個の課題の明確化

(2) 課題の共有

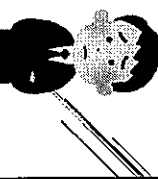
(3) 一貫した研究の方向性



(1) 個の課題の明確化

○ 自分の悩み

○ 課題意識

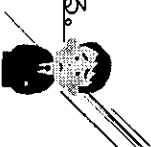


(2) 課題の共有（資料2）

○ 指導経験、専門分野等で多岐にわたる。

○ 学校の実態によって温度差

※ 課題の内容は類似している。



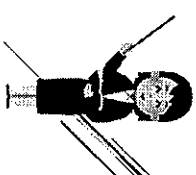
(3) 一貫した研究の方向性（資料3～8）

①教材研究の方法（理論）

②単元・指導のスタイル

③学習用語等の統一

④指導技術の共有



3 校内研究成功・充実の秘訣

(1) 理論面での支え

(2) 研究主任の存在（主体性）

(3) 児童の変容⇔授業者の手応え

(4) 継続性（モチベーション）

